



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第21号

2005.9.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめてもっぱら「かりお」の名前をつけています。

もくじ

おしらせ

-展示のカワシンジュガイを更新

活動報告

- 昆虫の観察会
- 湿原の植物観察会
- オオサンショウウオの観察会
- 小鳥の巣箱づくり

読者サロン

- テーマトーク
「オススメのホームページ」

観察会案内

- 秋の植生調査
- 雲月山の植物
- 深入山の植物
- サツキマスの産卵
- 鳥の観察会
- キノコの観察会

花だより

- キキョウ
- ワレモコウ
- オタカラコウ

おしらせ

展示のカワシンジュガイを入れ替えました

(2005.8.25)

高原の自然館に展示していたカワシンジュガイを大きな4個体に入れ替えました。水槽の中でもよく目立ち、観察しやすいと思います。今まで展示していた個体はもとの川に戻しました。

活動報告

昆虫の観察会

開催日時：2005年7月30日(土) 18:30

講師：清水健一

当日は雨が激しく降るときもあり、観察会も危ぶまれましたが18時頃には雨もあがり、長者原湿原で無事、実施されました。湿原の再生事業が行なわれている土獄と、安定した湿地の長者原湿原(以後、長者原)との比較を観察しようと長者原が選ばれました。一度の観察で比較するのは無理があるかも知れませんが、土獄同様、湿地性の蛾は観察できませんでした。しかし、2001年7月23日の土獄の観察と比較してみると蛾の種類は断然、長者原の方が多かったが草原性のタンポヤガ、ウスイロキョトウ等土獄では普通にみられる蛾が、まったくみられませんでした。シャチホコガ科の蛾はほとんどの種類が樹木食で、シャチホコガ科の蛾が多いことは広葉樹の林が保たれていることの現われです。土獄での2001年7月23日の観察では3種類と極めて少なく、過去に牧場として開発されたことが樹木の種類少なさを示しています。これに対し、長者原では10種類と多く湿原周辺の樹林が良好に保たれていることを示しています。それにしても最初は虫を恐がっていた子供達も終わり頃には、虫を平気で捕まえるようになったのには驚きました。虫に限らず生き物好きになってほしいものです。[清水健一]



日が暮れ始めた頃に設営開始。手前に見えるのは機材を入れるためのゴルフバッグ。



採取したガを処理するための管瓶を準備する先生。



今回は狭い場所での観察なので、幕ではなく筒型の装置。点火の前に装置について説明していただいた。



筒状の集蛾装置は内側に電気があるので、ペンライトや懐中電灯で照らしながらの説明となる。



今年もヘビトンボが登場。



カナブンの仲間もたくさんやってきた。



はじめは雨も降って、辺りは真っ暗だった。



だれかの「宇宙生物みたい」という声。たしかに。



小型のカミキリ。

活動報告

湿原の植物観察会

開催日時：2005年7月31日（日）9：30

講師：佐久間智子・白川勝信

朝から土砂降りの雨が降る中、参加者の皆さんは不安そうな顔で自然館に集まってこられました。観察会の開始の頃になると小雨になり、色とりどりのカッパを着た25名の参加者の方と、尾崎谷湿原へと出発しました。今回の講師はみなさんおなじみの白川先生、佐久間先生です。始めに、手の5本指を湿原に例えて、湿原の成り立ち・もろさ・重要性などのお話を聞き、湿原周りを歩きました。目についた植物の名前を聞いたり、植物の葉の生え方を教えてもらったり、湿地の植物の特性のお話を聞いたり、あっという間の1時間半でした。今回の参加者の方は熱心な方が多く、メモをとったり、質問もたくさんとびかかっていました。個人的には「ゼンカイでもハンカイソウ」という名前の覚え方がおもしろかったです。[この]



今立っている通路も湿原の水脈を分断している。



道の脇の小さな湿地でも植物を観察。



湿原に行く前に、八幡の盆地を見渡しながら、かつての湖を想像した。



看板を使って、尾崎沼の成り立ちとそれに伴う湿原の変遷を紹介。



堰堤にてモウセンゴケの繁殖戦略についてお話。



参加者からもぼつぼつと説明が入る。



最近では、草刈りをしてくださっているのでササユリが多く見られる。そんなわけで、ササユリ你的生活史など。



堰堤に戻ってきたところで本日のまとめと質問の時間。雨はすっかり上がって暑いくらいだった。



奥尾崎谷湿原。ここはアブラガヤとヌマガヤが多い、広がりのある景色。



この八幡湿原をいつまでも残していきたいものだ。

活動報告

オオサンショウウオの観察会

開催日時：2005年8月7日（日）13：00

講師：内藤順一

今回の観察会は、千代田地区の可愛川にて行いました。国の特別天然記念物であるオオサンショウウオの観察会ということで、子供を含め14名の参加がありました。とても暑い日だったため、川の水辺に腰をおろし、今日は、「オオサンショウウオが何を食べているか」「この領域にどれくらいのオオサンショウウオがいるか」ということを中心に観察していきましようとい内藤先生からのお話を聞きました。オオサンショウウオはいわば雑食で、ハヤ・アユ・ニゴイ・カワムツ・カワヨシノボリなどの魚類、アオダイショウ・クサガメなどの爬虫類、トノサマガエル・ツチガエルなどの両生類、カワガラスの毛、モグラ、オオサンショウウオ自身の脱皮片、などが、今までの調査時に口の中から出てきたそうです。ある時は、白菜がまるごと一株でてきたことがあり、びっくりされたというお話には参加者も驚いていました。この川の領域にいるオオサンショウウオは、マイクロチップをうめこむことで管理しているので、だいたい個体数を把握しており、現在は推定200頭前後だろうということです。さていよいよ、オオサンショウウオを探しに移動します。先生を先頭に、巣穴と思われるところへ行き、持参したアユで誘い出すなどし、数カ所から4頭の捕獲に成功!!1頭ずつ洗濯ネット (!!)に入れ、計測できる場所に戻りました。まず、何を食べたか調べるため、口の中にポンプで川の水を送りこみ、それを吐き出させると、内容物がでてきました。今回は、脱皮片と小魚という結果でした。夏よりもむしろ、冬の方がエサとなる魚の動きが鈍いため、オオサンショウウオは太っているそう。次は計測です。大きいもので、体長60cm・体重3kgほどでした。今回捕獲した個体4頭とも、マイクロチップが確認されました。子供たちは最初は遠巻きに眺めていましたが、少しずつ近

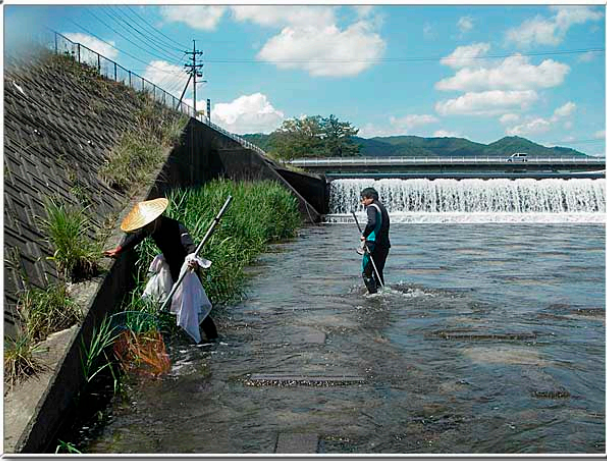
寄って観察して、「かわいいね」「思ったより大きい」という感想を持ったようです。観察した後は、元の巣穴近くに放しました。少々名残おしかったですが…。普段なら間近でみることのできないオオサンショウウオの姿に感動した観察会となりました。[このの]



川の水は冷たく気持ちがいい。魚の影が見えると、子供たちは網を持って追いかける。



内藤先生より、オオサンショウウオの生態・食性についてお話をさせていただく。



こういった川のほとりの茂みに巣穴があるらしい。



川の水をポンプで飲ませる。「麻醉より、こっちの方がオオサンショウウオも楽なはず」と先生。



潜って巣穴の中を観察。オオサンショウウオはいるかな？



出てきたモノは小魚・オオサンショウウオ自身の脱皮片。



袋に入れた鮎の匂いにつられて、大きな個体が出てきた。



体長を計っているところ。水を飲まされ、吐き出した後なのでぐったり。「計測は順序が大切。」と内藤先生。

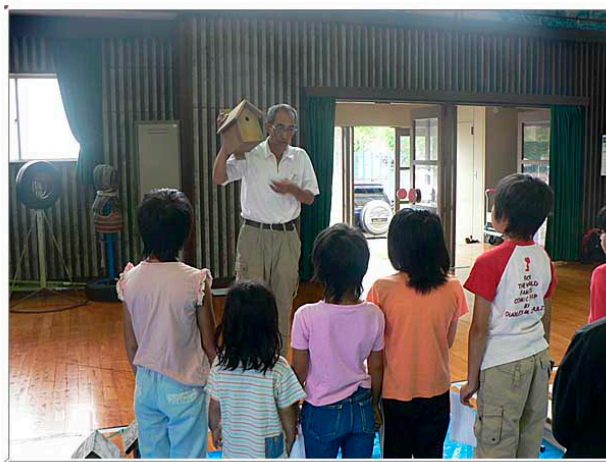
活動報告

小鳥の巣箱づくり

開催日時：2005年8月21日(日)9:30

講師：暮町昌保

八幡では久々の雨の中、夏休み中の観察会ということで、23名の参加者がありました。そのうち14名が子供の参加者だったため、とてもにぎやかに観察会はスタートしました。まず暮町先生から、巣箱作りについてお話があり、参加者は熱心に聞いていました。巣箱を設置するとどんな効果があるかという、鳥を観察できることはもちろん、鳥が虫を食べてくれることによって、(虫の駆除のための)薬を使わなくてもいい、というメリットがあるようです。今回の巣箱は、シジュウガラ・ヤマガラ用ということで、穴の大きさは2.9cmと設定し、スギの板を使用しました。最初は板を寸法通りに計り、印をつけ、ノコギリで切る作業に取りかかりました。普段使うことのない、サシガネ・ノコギリの使い方から教わり、切り出しも一苦労。正直息があがりました…。次は切った部品を組み立て、釘を打ちましたがこれがまた一苦労。スギは割れやすいため、一度ドリルなどで穴をあけ、そこへ釘を打ち込みました。余裕ができたところで周囲をみると、子供のほうが手早く作業しているのには感心しました。屋根をかけるところが難しく、助けを求める声、やり直す姿もみられました。時間はかかりましたが、全員作り終え、大満足顔!!最後に暮町先生、そして飛び入りで参加された上野先生に、巣箱の設置方法についてお話を聞きました。巣箱をかける場所は、3~4mの高さの所で縄張りがあるため50m以上は離すこと。だいたい4月から9月に鳥は2回巣作りをするので、それが終わると巣の中を掃除するよにとのこと。冬は1羽だけが巣箱に入ります。親子での参加、子供だけの参加、いろいろな取り合わせでしたが参加者全員で協力できた巣箱作りでした。巣箱を設置した方、その後の報告お待ちしております!![このの]



暮町先生より、巣箱の果たす役割についてお話を聞く。



作り方のポイントを、実際にやってみせてもらう。



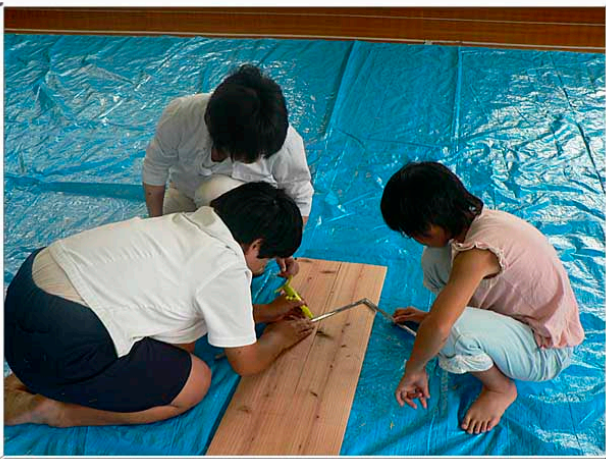
親子で協力して、サイズ通りに印をつける。頭に巻いた手ぬぐいに、気合いが入っています。



ノコギリを持つのは初めて!! けがをしないように、気をつけて....



とても作業が手早い人も、完成を待つ子供たちの期待に答えて、ラストスパート!



間違えないように、慎重に。サシガネの使い方も、むずかしい。



小さな手で、大きなカナヅチをトントン。見守るお父さんも、笑顔!



みんなで協力すれば、はかどるね! ぐらつかないように、固定する事が大切。



電気ドリルを片手に助っ人参上!! スイスイ仕上がっていきます。

読者サロン

このコーナーではみなさんから頂いたお便りをご紹介します。

テーマトーク

今回のテーマは、『オススメホームページ』です。それでは、コメントを紹介します。

nokko さん

●丹沢の自然再生のページ

WebGIS はまだですが、図鑑などおもしろいコンテンツがあります。

<http://e-tanzawa.agri.pref.kanagawa.jp/>

●岡山理科大学 波田先生のページ

とにかく植物雑学辞典には脱帽です！

<http://had0.big.ous.ac.jp/~hada/>

●広島大学井鷲研究室のページ

身近にこんなところが！といつも驚かされます。

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/isagiy/index.html>

タケヲ さん

●がんばれ！ゲイツ君

自然系じゃなくてもいいのなら

<http://www.asahi-net.or.jp/~FV6N-TNSK/gates/>

さくまともこ さん

●いがりまさしのホームページ

いがりまさしのコメントも書いてあって、図鑑を見るのとは違うおもしろさがあります。珍しい植物を見に行くとき、自分はこの植物のことをどれだけ知っているだろうかと思えます。

<http://www.plantsindex.com/>

●広島周辺の山歩きと植物観察

道中の写真が多く、事前に見ておくと、迷わず進んでいるのが分かって安心します。次、どこの山に登ろうかなあというときにはお勧めのページです。

<http://homepage1.nifty.com/hiroshimakouichi/>

あらーきー さん

●JIM BRANDENBURG のページ

八幡での撮影を終え、市内の自宅に戻り、パソコンを起動させてふと開いてしまうホームページがある。ナショナルジオグラフィック紙などで著名な、ジム・ブランデンバーグ氏のホームページだ。僕自身、表現手段としての「写真」というメディアで、ブランデンバーグ氏の作品は傑出している。一枚の写真の背後にも、豊かな物語と時間を感じさせてくれる。「記録」としての写真ではなく、「記憶」としての作品があることを僕に教えてくれる。

<http://www.jimbrandenburg.com/>

そして、高原の自然館三人娘のオススメは...

●ぶなの里

組チョーの言動がおもしろいから。(柳崎) 私事ながら・・・よろしければ見てみてください。(藤原)

<http://bunanosato.com/>

●kan ちがい！

おすすめのHPは、迷わず kan さんのブログ「kan ちがい！」ですね。ほぼ毎日更新というタフさ・写真の美しさ・コメントのおもしろさ、と三拍子そろっています。特に植物の写真は毎回楽しみ、であるのと同時に私のお勉強の場所でもあるのです。(河野)

<http://kanworks.exblog.jp/>

しらかわからもオススメを少し。

●ウォッチず

全国の 1:25000 の地図を閲覧できます。も

読者サロン

ちろん印刷も。
<http://watchizu.gsi.go.jp/>

●昆虫エクスポーラ

虫が好きならこのサイト。情報量とまとめかたがすばらしい。
<http://www.insects.jp/>

●生物形態資料画像データベース

アリ画像がスゴイと思います。
<http://taxa.soken.ac.jp/>

今月のテーマは『秋の夜長に読みたい本』です。今回はホームページでしたが、ゆっくりとゆったりと文章に浸るなら、やっぱり印刷された本が良いですね。小説やドキュメントをはじめ、詩集、写真集、絵本、ちょっと難しい専門書などなど、おすすめの本を教えてください。

ちなみに僕のおすすめは・・・たくさんありすぎて難しいですね。

次号のこのスペースにまとめます (^_^);

このコーナーでは、皆さまのお便りをお待ちしております。西中国山地の自然賛やコラム、イベント情報をはじめ、苅尾電波塔の感想やご意見など何でも結構です。お葉書、fax、メールなどで気軽に御寄稿ください。

観察会案内

湿原の復元プロジェクト～秋の植生調査～

開催日時：2005年9月19日（月）9：30
集合場所：高原の自然館
準備：作業のできる服装、長靴、弁当、雨具、ルーペ、図鑑、メモ、おやつ等
定員数：30名
参加料：無料

あぜ波を設置してから2回目の秋です。私達の活動からはじまり、広島県が進めている「八幡湿原再生事業」も、来年度にはいよいよ設計の段階を迎えます。あぜ波のアイデアは設計にも活かされる予定で、この調査は再生事業において貴重な資料になります。専門的な知識は必要ありません。ぜひご参加ください。

※ 談話・懇親会を開きます！

開催日時：2005年9月18日（日）19：00
会場：ぶなの里
参加料：2,000円（宿泊の場合は+ 4,300円）

調査の前日に懇親会を開きます。湿原のこと、八幡のこれからのことについてゆっくりお話しませんか？民宿にも泊まります。9月15日までに申込みをしてください。

雲月山の植物

開催日時：2005年9月25日（日）9：30
集合場所：雲月山駐車場
講師：暮町昌保・斎藤隆登・和田秀次
準備：山を歩ける服装、弁当、雨具、双眼鏡、ルーペ、図鑑、メモ、おやつ等
定員数：30名
参加料：300円（自然史研究会会員は100円）

今年の春に山焼きが再開した雲月山では、山焼きの一週間後には既にたくさんのショウジョウバカマが咲き、草原の再生を予感させました。秋を迎えて、草原ではさらにたくさんの花が咲いているはず。山焼きに参加された方、その後の観察会に参加された方ももちろん、初めての方も、この再生の第二章を見に行きませんか？翌週の深入山の観察会とセットで参加されると比較ができて面白いですよ。

観 察 会 案 内

深入山の動植物

開催日時：2005年10月2日(日)9:30
集合場所：深入山山の家(かも八前駐車場)
講師：暮町昌保・斎藤隆登・和田秀次
準備：山を歩ける服装、弁当、雨具、双眼鏡、ルーペ、図鑑、メモ、おやつ等
定員数：30名
参加料：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円)

今年山焼きが再開した雲月山に対し、深入山では毎年山焼きが続けられてきました。当然、そこに成立植生は違ってきます。この観察会では山焼きを続けることによって維持されている草原の植生を観察します。前週に行われる雲月山の観察会と併せて参加するとより楽しいと思いますよ。

サツキマスの産卵観察会

開催日時：2005年10月8日(土)9:30
集合場所：八幡高原センター
講師：内藤順一
準備：山を歩ける服装、弁当、雨具、双眼鏡、図鑑、メモ、おやつ等
定員数：30名
参加料：300円(自然史研究会会員は100円)

聖湖を海にみたてて生長したアマゴは、大型化してサツキマスとなり、八幡の柴木川に遡上してきます。この観察会では遡上してきたサツキマスのほか、産卵のために作られた産卵床なども観察します。さらに今回は、昨年、町内で生息が再確認されたカワシンジュガイについてもお話していただきます。西中国山地の川のお話を総合的に聞く機会です。ぜひご参加ください。

鳥の観察会(鳥類相調査)

開催日時：2005年10月9日(日)8:00
集合場所：高原の自然館
講師：上野吉雄
準備：山を歩ける服装、弁当、雨具、双眼鏡、図鑑、メモ、おやつ等
定員数：30名
参加料：300円(自然史研究会会員は100円)

キノコの観察会

開催日時：2005年10月9日(日)13:00
集合場所：高原の自然館
講師：山手万知子
準備：山を歩ける服装、雨具、ルーペ、キノコかご、図鑑、メモ、おやつ等
定員数：30名
参加料：300円(自然史研究会会員は100円)

花 だ よ り

キキョウ

かつてはたくさんあったようですが、広島県のレッドデータブックに載ってしまいました。咲く寸前の蕾もかわいいですね。

ワレモコウ

最近ではすっかり見ることが少なくなった、秋の野草の代表です。見つけたときには、ぜひ特徴的な匂いを嗅いでみて下さい。

オタカラコウ

川沿いや林縁など、少し湿ったところに咲くキク科の大型草本です。蕾のあつまりがおもしろい形をしており、花は下から順に咲き登っていきます。フキに似た大きな葉を観察してください。

小学生の頃、「夏休みが終わる」と「夏が終わる」は同義語でした。そして、大人になった今でもこの感覚が抜けません。8月31日が近づくにつれてソワソワしてしまい、9月1日になるとなんだか気持ちが切り替わる... そんなことってありませんか?今年の夏は十分お休みを戴いて満喫したので、9月からまた気分新たにがんばろうと思っています。みなさんの夏はどんな夏でしたか?よろしければ夏の思い出を教えてください。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info